

3商店街の代表者の方々に、商店街運営のポイントや活性化方法、将来への展望をお聞きしました。



橋本商店街協同組合
古橋裕一 理事長

人のつながりを売りたい

地域のリーダーシップは商店街がとるべきだと考えて活動してきました。人が集まる場所で、人と人をつなぐ役割を担うこと。人のつながりこそを売りたいと思っています。個人商店をしっかりと知ってもらうことが重要ですので、「まちゼミ」などは店主の人柄を見せる機会にもなりますし、今後もさらに発展させていきたい事業の一つです。

商店街協同組合としても会員が増加していますし、加盟してよかったと感じてもらえるような事業をしているつもりです。事業を真似されるような商店街になれたらと思っています。



相模大野駅周辺商店会連合会
中田克己 会長

事業の継続と挑戦

東京オリンピックが迫っていることもあり、商店街としても海外チームの事前キャンプに協力する動きがあります。相模大野には様々な国の料理を食べられるお店が揃っていますし、しっかり受け入れる体制を整えていきたいと考えています。

もんじぇ祭りもアートクラフトも回を重ねて成熟していきました。今後は今ある事業を継続していきながら、他地域で行っている事業を臆さずに取り入れていきたいと思っています。良いものはどんどん取り入れて、それから自分たちのオリジナリティを出せれば、どんなことでも試していきたいですね。



にこにこ星ふちのべ商店会
萩生田康治 会長

すべての事業は人が資源

淵野辺駅周辺は歴史的な建造物などが無いので、「人が資源」と考え、協力して面白そうなアイデアを形にしてきました。「ムーンウォーク世界大会」など、「なんだそりゃ」とツッコミが入る余裕があるくらいが、まちのイベントとしては丁度いい気もします。

学生さんが多いことも淵野辺の特徴ですが、SNSで呼びかけあってくれるので自然と人が集まりますし、活気も出ます。学生さんにもまちで学ぶ場を提供できているのではないのでしょうか。まちの事業に若い人が参加しやすいように、常に間口を広げておくことも重要かと思っています。

さがみはらクリーン大作戦実績

- 第15回(平成27年9月13日～10月3日実施)
参加商店街:31商店街等 参加人数658人
(商店街538人 協力団体等120人)
- 第16回(平成28年3月16日～3月22日実施)
参加商店街:31商店街等 参加人数743人
(商店街476人 協力団体等267人)
- 第17回(平成28年9月10日～9月19日実施)
参加商店街:29商店街等 参加人数709人
(商店街484人 協力団体等225人)
- 第18回(平成29年3月16日～3月22日実施)
参加商店街:28商店街等 参加人数676人
(商店街363人 協力団体等313人)
- 第19回(平成29年9月13日～9月20日実施)
参加商店街:24商店街等 参加人数620人
(商店街334人 協力団体等286人)

商店街新規加入数の推移

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
正会員	34店舗	47店舗	50店舗	56店舗	60店舗
賛助会員	15店舗	11店舗	16店舗	27店舗	12店舗
計	49店舗	58店舗	66店舗	83店舗	72店舗

商店街カUP! だより 第11号

地道に10年!

さがみはら

クリーン大作戦

商店街では地域の皆様に寄り添う 様々な活動を実施しています!



第19回さがみはらクリーン大作戦の様子

増えてます!

あなたの
まちの

認知症サポーター

認知症サポーターとは…

養成講座の受講を通じ、認知症について正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人や家族を温かく見守る「応援者」です。

お客様と近い距離で触れ合うことが多い商店街では、積極的に講座の受講に取り組んでいます。

その笑顔にほっとする
認知症高齢者を支えるまちづくり



相模原市 認知症サポーターシンボルマーク

認知症サポーター
がいます

このシールが目印です

地域とつながる商店街

地域に密着した商店街では、それぞれ独自の事業を展開し、まちの活性化に努めています。今回は、三つの商店街の事業にスポットを当て、それぞれの商店街がどのように地域とつながっているかをご紹介します。

橋本商店街協同組合

「N」JHダンススペース」で踊る利用者



人と人をつなげる事業

賛助会員を含め、約150店舗が加盟する橋本商店街協同組合では、七夕まつりやハロウィンフェスティバルなど、地域で行われる様々なイベントの運営やサポートに携わり、まちの活性化に努めてきました。

古橋裕一理事長は「橋本には人の集まるイベントが多くありますが、商店街としては個人商店を知ってもらい、人と人をつなげることに注力してきました」と話します。そういった考えのもとに始まった事業に、「まちゼミ」「橋本アプリ」があります。

「まちゼミ」とは、専門的な知識や情報を、橋本商店街協同組合の加盟店舗の方が講師となって無料で教える少人数制の講座。化粧品店でのメイクレッスンや弁護士事務所での法律相談、飲食店での調理体験や建設会社でのリフォーム相談など、様々なことを学べます。これまでに6回行われ、例年は秋に開催していましたが、「新しく橋本に住み始めた人が落ち着いてくる5～6月に時期を移すつもりです」と古橋理事長。

「橋本アプリ」は、商店街を中心に地域情報を配信するアプリ。クーポンなど買物に役立つ情報や求人情報、商店街、連携団体のイベント情報などをタイムラグ無く届けています。また、投稿した写真がアプリ内のギャラリーに掲載されるなど、利用者も参加することで内容の充実を図っています。古橋理事長は「今や全世代がスマホやタブレットを利用しています。事前に情報をお届けすることで、商店街へ来るきっかけになれば嬉しい。連携団体にも情報発信の場として活用してもらいたい」と話します。

また、昨年4月から市営駐車場へ続く「杜のこみち」に設置された「N」JHダンススペースの管理・運営も担っています。幅21メートルの壁に相模原市が鏡を設置したもので、市の環境改善事業に対し商店街が提案する形で実現しました。もともとこの場所でダンスをする若者は多く、プロダンサーも生まれましたが、通行人とのトラブルもありました。そこで登録制のマナー順守を徹底した場を提供「迷惑だからと排除するのではなく、育てていく。また新しくスターが生まれてほしい」と古橋理事長は笑顔を見せました。



参加店舗も増え続ける「まちゼミ」



地域の情報を得られる「橋本アプリ」

相模大野駅周辺商店会連合会

大人も子供も楽しめる「もんじえ祭り」



まち全体を盛り上げる

相模大野駅周辺の4商店街が連携する相模大野駅周辺商店会連合会。相模女子大学も近く、まちには若い女性が目立ちます。

そんな相模大野の一大イベントに「もんじえ祭り」があります。商店街の飲食店が主体となって始まり、野外で音楽と食事を楽しめるお祭りです。もともとはジャズをメインにしていたのですが、今では様々なジャンルのアーティストがステージを飾っています。飲食店が主催とあって、出店のクオリティも高いと評判です。

中田克己会長は「以前、相模大野にはまち全体で楽しめるイベントがありませんでした。子供たちが誇りにできるような、地元のお祭りを作りたいと思ったのがきっかけです。「アートクラフト市」には全国から参加者が集う自分たちで一から作ったイベントなので、若い人を育てて残していきたいですね」と期待します。著名なアーティストも出演する、県内でも有数の野外イベントとして、毎年夏の開催には周辺地域からも多くの人が集まっています。

春と秋、年2回開催の「相模大野アートクラフト市」も、2005年から続いている長寿イベントです。芸術活動中、または目指している方が作品を販売できる場を提供しています。作品を購入するだけでなく、体験クラフトコーナーもあり、多くの市民が集まります。回を重ねるごとに参加者が増え、今では全国から出品者を募り、駅前5ヶ所での開催は賑わいを見せています。

伊勢丹相模原店からの提案で、2015年4月から、商店街との共通ポイントカード「Sagami-Ono Card」が導入されました。伊勢丹や商店街で買い物をすると商店街で使えるポイントが貯まるというもので、商店街と大型店との協同事業は注目を集めました。キャッチコピーは「ポイントは愛」。中田会長は「商店街でポイント利用するお客様も増加していると実感しています。参加店舗も増えているので、うまく循環しているのではないかと思います。大型店との連携も商店街には必要になってくるのではないのでしょうか」と話します。



伊勢丹との共同ポイントカード



にこにこ星ふちのべ商店会

商店街のPR動画も作成した



地域全体が主役

周囲に大学が多く、JAXAが設置されていることでも注目を集める淵野辺で、約80店舗が加盟するにこにこ星ふちのべ商店会。

毎年夏に行われる「大野北銀河まつり」は、淵野辺に関わる多くの団体が協力して成り立っている一大イベント。にこにこ星ふちのべ商店会の萩生田康治会長は、「地域のみんが集まって作るイベント。商店会の会合でも銀河まつりのことを話し合います」と話します。銀河まつりには、多数の大学生ボランティアも参加しており、イベント全体の活気にもつながっています。

JAXA相模原キャンパスが開設した平成元年から商店街でも歩調を合わせてきました。駅周辺の通りの名称も星座名が付けられています。「はやぶさの帰還がきっかけで、イルミネーション点灯式には大学生が協力。淵野辺の名前が更に知られるようになりましたが、まちとしては最初から盛り上げていこうという意識がありました。今では海外からのお客様も増えました」と萩生田会長は話します。

青山学院大学陸上競技部の躍進もまちの活気につながっています。箱根駅伝の優勝パレードには、3万人もの人が出たといいます。「普段から陸上部の子が走っているのを見ているし、純粋に応援していて、活躍は嬉しいです。青学だけでなく桜美林大学、麻布大学の学生さんたちも積極的にまちづくりに参加してくれています。企画を持ち込んでくれることもあるので、商店会でも出来る限り協力しています」と萩生田会長。

長年続けてきた事業に「ナイトバザール」があります。名称こそナイトバザールですが、その内容は様々。月に一度の開催で、140回を数えます。その時々でアイデアを出し合い、時期に合わせたイベントを実施してきました。七夕祭りやサンマ祭り、ピアガーデンやバンド演奏など、枠に捉われないフットワークの軽さが魅力です。「以前、路上で歌っていた若者がいたので、ナイトバザールで歌ってもらったのですが、インディーズデビューが決まったと連絡がありました(笑)」と萩生田会長は笑顔を見せました。



イルミネーション点灯式には大学生が協力



「ナイトバザール」でのハロウィンの様子